

よぬだ ところどころ



第七号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

今峯御前と牧野

読み方 イマミネ ゴゼンと読む

写真は、県道沿いの野上にある今峯氏の塚

伝承の発生した時期は南北朝のころという

木曽川の右岸、八百津町野上、八百津中学校の下の県道418号左側のアパート敷地の一角に「今峯塚」とされる小さな石の標識があり、その横に今峯氏夫婦のものとされる歌碑が二基ある。 上写真

この塚の標識を含めて、すべて新しく建立されたものであり、この場所が正確に今峯塚の場所であるかどうかは定かではない。今峯又太郎は、上流の丸山に拠点があったともいわれているが、これも城址かどうかはよくわからない。このような状態を前提として、お話の筋は、南北朝の時代に南朝に属した親王が、伊勢から美濃へ逃れるに伴い、家来の今峯又太郎が、親王の勢力に味方をし、北朝の勢力下にある武士と戦って敗れたということである。

今峯氏の出自・動向について、新撰美濃志には以下のように記されている。

- ① 厚見郡（現在の岐阜市加納付近）に今嶺（イマミネ）村がある
- ② 今嶺佐馬頭氏光は、土岐頼遠の子である
- ③ 土岐系図に氏光は、細目にて討ち死にとあり
- ④ 氏光は三兄弟で、兄は光政、弟は氏直という
- ⑤ 兄弟相分かれて、戦うことになってしまったが、兄弟愛から降伏を進めたが、兄弟と言えども合意に至らなかったとされる

注 氏光は二木の養子としてこの八百津丸山に拠点を持った可能性がある

問題は、なぜ牧野に女性がいたのかということ、歌碑には「まきの戸を細目に明けて眺むれば 今峯出づる月ぞ恋しき」と刻まれ、「牧野から細目の方をみると、月に見立てた主人が恋しい」というような意味であるが、牧野にいる豪族の子女であったのだろうか。

